



えひめハッピーライフ



えひめの山里でリフレッシュ

愛媛大学 理工学研究科 教授 堀 利栄先生

夫婦で大学勤務

こんにちは。理学部の堀です。本業は、地質学・古生物学の教授ですが、昨年度から女性未来育成センター副センター長もさせて頂いています。愛媛大学とは、夫が先に助手で就職していたことから教養部の非常勤講師で採用いただいて、それから数えると20年以上のお付き合いになります。ちなみに「堀」は、通称(旧姓)です。文部省通達以降平成13年から通称使用届けを出して学会や仕事ではこの苗字を使っております。それまではいろいろ大変でしたので、大手を振って通称を使用できているのはありがたいことです。

員という夫婦の方も結構おられます。多くの研究者が単身赴任などで家族と離れて暮らさなければならぬ環境にある中、愛媛大学はとも理解ある職場ではないかと思えます。



愛媛での生活

また、愛媛大学は松山市の中心部に近く、繁華街に歩いていけば港まで車で15分、さらに日本最古の温泉である「道後温泉」まで歩いて

20分という素晴らしい立地にありません。松山市は、名城松山城を中心に発達した城下町で、物価も高くなく、愛媛県産の美味しい農産・水産物が安く手に入ります。野菜の味はお墨付きです。東京から赴任した同僚が野菜の味が濃いと感激し、東京が実家の生徒のお母さんは、松山に来るたびに大学近くの八百屋さんで野菜を買い付け送るほどです。

市内は、自転車さえあれば、ほぼどこへでもいけ、待機児童問題などほとんど聞かない子育て世代に適した場所です。私たちは、息子が小学校高学年になるまで郊外の賃貸マンションで暮らしていましたが、土のある生活がしたかったのと、息子と後何年一緒に生活できるのか考えると、家族で生活できる時間は10年

もない事がわかり郊外に住宅を購入し引越すことにしました。松山市及びその周辺では大都市ほど不動産購入が困難なわけがなく、たまたま運良く山里にあった中古住宅を購入することができました。山の上にある住宅だったので、中学校まで自転車で7kmほど通学しなければならぬ息子は怯み、飲んで帰るタクシー代を心配する夫に当初反対されましたが、標高350mの澄んだ空気に包まれた心休まる住環境に、現在では二人とも今住んでいる場所が大好きになっております。

ゲストハウス

実は、購入した中古住宅には、築120年の古民家がついており、それも一緒に購入となりました。私は仕事柄、海外調査が多いのですが、海外の研究仲間にも自宅に招待される機会がたくさんあります。その都度、その土地その土地に特有の建築様式の自宅に招待され、地物の農産物の手料理でもてなしていただくことに大変感激しておりました。

自分の研究者仲間が来日した時に、いつか日本の文化の香り高いおもてなしができたらずっと思い続けておりましたので、この機会にその古民家をお客様用のゲストハウスに改装することにしました。





えひめハッピーライフ



日本産の「地元の良いものを使う」ことをコンセプトに、設計士さんと相談しながら、愛媛県・四国の良いものを探して地元の工務店さんにお問い合わせして取り付け改装してもらいました。改装には一年かかりましたが、心休まる「和モダン」な古民家になりました。古民家には料理機能のついた蔦ストーブを入れ、暖をとりながら休みの度に宴会用のオーブン料理の腕を磨いております。今年のクリスマスには、ローストチキンを息子と二人で作りました。

また、焼き芋も美味しくできます。今住んでいる家の周りにはたくさんのお芋が採れ、家の前の畑を借りて私も無農薬野菜を作りはじめました。念願のガーデニングならず、ファーマーリングです。



山里なので寒暖の差があり美味しい野菜が採れます。蔦ストーブで焼き芋を作るためにここ数年はサツマイモをたくさん作っています。

住みやすい愛媛

この自宅から職場まで車で35分ほどかかるのですが、街中から35分とは思えないほど自然に溢れ「たった35分で別世界」です。職場での忙しさ(ストレス?)を忘れてリフレッシュするには最高の場所です。日本人は、休んでリフレッシュするのが下手とよく言われますが、そんな心配なく上手に自動的にリフレッシュできてしまいます。

「ここまで書くとは何かものすごい田舎のように思われますが、車で5

分で大型スーパーに行けるような便利な所です。

ネット環境も整備されており、自宅&古民家に居ながら世界の友達と連絡が取れます。古民家に1週間泊まった海外研究者仲間、ネットでも自国の出版社と連絡を取り、出版物の校正をあっという間に済ませてました。

愛媛には、私の住んでいるこの場所だけでなく、都会に近い自然に溢れた住環境の素晴らしい所がたくさんあります。

おそらく愛媛県だけでなく他の大都市周辺でも同様だと思います。近年のネット環境の整備で、現在では、地方や山里/田舎に住んでも、世界規模で考え行動することが可能になっています。今後は、私たち



のように山里や田舎に住みリフレッシュしながらバリバリ?仕事をという子育て世代が増えるかもしれません。また、隣家との距離が離れているので、どんなに子供が騒いでもピアノの練習をしても、夜中にお風呂に入っても洗濯機を回して大丈夫です。

私の家族のような子育て世代が増えれば、山間農村の過疎問題など消えていくのかもしれない。毎日7kmの坂道を自転車帰る息子は、おかげでメタボの心配が消え体が鍛えられました。ストレスフルな立場にある夫は、どんなに飲んで遅くなくても帰ってきてリフレッシュしています。

皆様も機会があれば、ちよつと近い田舎でスローライフを楽しんでみてはいかがでしょうか?

今愛媛大学では、女性教員を増やそうという動きが活発化しています。ぜひ優秀な女性(もちろん男性もです)研究者の皆様が愛媛に来ていただき素晴らしい住環境を堪能し、世界に羽ばたく研究をしていただければと思います。

